



JA全農福島だより ~令和4年度 1月号~



 JA全農福島



# 2023新年 ごあいさつ



県本部長 渡部 俊男



謹んで、**新春**のお慶びを申し上げます。

旧年中は、農家組合員・JAグループ役職員・お取引先をはじめ、関係者の皆様方には、全農事業に多大なるご理解・ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

我が国の農業は、ロシアのウクライナ侵攻や中国の自国経済優先政策や円安を起因とした資材価格高騰や、国産農畜産物への価格転嫁が進まないことなどから農業経営だけでなく私たちの暮らしにも大きな影響を及ぼしています。

また、コロナ禍の影響から消費者の働き方やライフスタイルが大きく変化し、多様な販売チャネルの構築や、将来に渡り食を安定的に流通させる仕組みづくりが急務となっており、国内ニーズへの対応はもとより、海外マーケットニーズにも積極的かつ柔軟に対応し拡大することが、国内農業の生産基盤維持には重要であり、その主役として全農グループへの期待は年々高まっています。

そのような情勢のもと、我々福島県本部役職員一丸となり、全農グループの一員として新たな中期計画の2年目となる令和5年度「食と農を未来へつなぐ」をキャッチフレーズに、10年後を見据えた2030年の全農グループの目指す姿「持続可能な農業と食の提供のために、なくてはならない全農であり続ける」を具現化するために、6つの全体戦略(①生産振興 ②食農バリューチェーンの構築 ③海外事業展開 ④地域共生・地域活性化 ⑤環境問題など社会課題への対応 ⑥JAグループ・全農グループの最適な事業体制の構築)の着実な実践を加速していきたいと思っております。

福島県本部には、震災復興・風評払拭・自然災害・コロナ禍等、他県には無い特殊事情や固有課題がまだまだ残っていますが、この課題を早期解決し、目標達成に向け、役職員一丸となり頑張ってまいります。

本年も、引き続き全農福島県本部の事業推進にご理解とご協力を賜りますようお願いいたします。



# 児童養護施設へジェラートを贈呈！

畜産部 畜産酪農課

令和4年12月7日(水)に児童養護施設へのジェラート贈呈式を実施いたしました。

児童養護施設に通う子どもたちへの福島県産食材（福島県産乳）を通じた「食育支援」や、酪農生産への理解醸成等を目的に実施し、昨年引き続き2回目となります。

贈呈式は福島市の県総合社会福祉センターで行われ、渡部県本部長より白河学園の鈴木栄一園長（県社会福祉協議会児童養護施設部会部会長）へ目録が渡されました。また、県社会福祉協議会安齋副会長より感謝状をいただきました。

ジェラートは、12/24(土)のクリスマスイブに届けられ、子どもたちへのクリスマスプレゼントとして贈られました。

引き続き福島県産生乳および乳製品の消費拡大に努めるとともに、次世代への支援活動を積極的に取り組んでまいります。



渡部県本部長⑥より鈴木園長へ目録を贈呈



安齋副会長⑥より感謝状を授与



子どもたちへクリスマスプレゼント喜んでもらえたかな・・・。

# 令和4年度大阪地区米穀担当者会議開催

米穀部 米穀販売課

令和4年12月20日（火）、西日本管内の米穀販売担当者の意見交換を目的として大阪J Aビルにおいて「令和4年度大阪地区米穀担当者会議」を県連・県農協、全農県本部、全農西日本米穀販売事業所から合計14名が参集して開催しました。

会議は各産地との意見交換を主におこない、福島県からは令和4年産米の集荷状況や動向、5年産米に向けた産地課題等について発表し、特に東北の産地からは主食用米からの作付転換や作柄が影響し、集荷に苦慮しているとの意見が多くありました。一方では、販売価格は全体を通して回復傾向にあることも共有されました。

我々JAグループは、今後も生産者の水田営農の安定とお客様への安定供給に向けて、米穀事業に取り組んでまいります。



# 伊達地域のあんぽ柿は発祥から100年目！ ～小学生への食育活動を実施～

園芸部 福島園芸センター

福島県の北地方に位置する伊達地域でのあんぽ柿生産は、旧伊達郡五十沢村にて大正11年に硫黄燻蒸技術が確立され、大正12年にあんぽ柿出荷組合設立により出荷が開始となり、令和4年に節目の年である100年を迎えました。

“これまで”の先人への感謝に加え、“現在”のあんぽ柿の品質や味を“これからの未来”へどのように伝承していくか、次世代を担う小学生に向け食育活動に取り組みました。

## ①技の伝承（作り手の育成）

令和4年11月18日（金）に伊達市立梁川小学校の3年生93名を対象とした「あんぽ柿学習会」を実施し、あんぽ柿の歴史や作り方、あんぽ柿の流通、生産者の思いについて知識を深め、あんぽ柿を身近に感じてもらいました。



あんぽ柿学習会の様子

## ②味の伝承（新たな食べ方の提案）

梁川小学校3年生にあんぽ柿（平核無柿）を贈呈し、自慢のあんぽ柿レシピを考案してもらい、12月6日（火）の「あんぽ柿100周年記念式典」会場において、レシピの展示を行いました。またレシピコンテストで入賞した作品を摺上亭大鳥の料理長に再現してもらい、記念式典で披露することができました。（最優秀作品「あんぽ柿ゼリー」）



小学生考案！あんぽ柿レシピ



最優秀賞「あんぽ柿ゼリー」

あんぽ柿を次の100年に受け継ぐため、引き続き食育活動に取り組んでいきます。

# 「ドローン農薬散布実務講習会」開催

営農支援部 T A C 推進課

営農支援部では、農業ICT等の新技術を活用した営農支援のひとつとして、ドローンを活用した「**ドローンの請負防除の仕組み作り及び拡充**」を目指しています。

全農福島がパートナー企業と開催する「ドローン農薬散布実務講習会」を受講したオペレーターをJAの散布協力メンバーとして防除を委託していくという仕組みです。

令和4年度は、県内2か所で開催し13名の参加を頂きました。講習会では、散布計画作成や飛行に伴う法律の確認、また機材準備、技能確認、実圃場での散布訓練を実施し、受託防除のスキルアップを図って頂きました。

この講習会を通し、JA・農作業子会社・散布協力メンバーと連携し、**栽培管理の省力・生産基盤の維持拡大**に取り組んでまいります。



座学の様子



使用機材の準備



実圃場散布訓練（水撒布）

## 片倉コープアグリ新潟工場 視察研修

肥料農薬部 肥料農薬課

令和4年11月29日、片倉コープアグリ新潟工場にて、全農福島肥料農薬推進担当者の現地研修を行いました。

視察した新潟工場は集中購買銘柄をはじめとした化成肥料を製造しており、国内でも最大級の大型製造設備を備えた施設です。メーカーから年間の生産能力は最大で90,000 t（※同一銘柄生産の場合）になり、現在は47銘柄を製造しているとの説明を受けました。

その後、実際に稼働している工場をまわり、肥料の製造過程や**品質チェック**について見学しました。参加した担当者は「製造の現場をみることで、製品への理解が深まった。より詳しい知識をもって推進に取り組める。」と話しており、担当者の**知識を深める**機会となりました。

JA全農福島は引き続き、**肥料の安定供給**に努めてまいります。



片倉コープアグリ新潟工場



国内最大級の肥料乾燥設備（キルン）

# 令和4年度園芸資材品目別研修会開催

施設資材部 資材課

令和4年11月25日、JAふくしま未来「令和4年度園芸資材品目別研修会」が野田支店会議室で開催され、全農福島施設資材部資材課取り扱い商品について、福島・伊達地区の資材担当者を対象に説明・提案を実施しました。

研修会は、水稻育苗ハウスや遊休ハウスの積極的利用を目的として比較的簡単に栽培可能な全農式ト口箱養液栽培システム「ういずOne」と、労働力削減のための水稻育苗マット「こめパワーマット」について商品の使用方法や特徴について提案を行いました。

「ういずOne」は、ふくしま未来管内に数件の導入事例があるものの初めて聞いた参加者がほとんどだったため「各地区に空いているハウスが多いので生産者に紹介してみたい！」と意見を頂きました。また「こめパワーマット」については商品自体の認知はあるものの使い方が分からず推進しにくいなど、事前の意見がありましたが、実際に資材を使って説明したことで「研修で学んだ特徴や使い方など生産者に細かく説明できそう」といった前向きな意見を頂きました。

今後、より多くの生産者に利用してもらえるように、積極的に使用方法の周知を行い「ういずOne」「こめパワーマット」の普及拡大に取り組みたいと思います。ご興味をお持ちの方は是非お近くのJAへお問い合わせください。



実物を使って商品説明「こめパワーマット」



「ういずOne」の概要説明

## 全農レポート2022説明会を実施

管理部 販売企画課（広報）

県内メディア各社に全農レポート2022の説明をおこなうとともに、全農事業への理解を深め、メディア各社とコミュニケーション強化を図ることを目的に令和4年12月16日（金）開催しました。

また魅力ある福島県産農畜産物の情報発信をお願いし、メディアと全農福島が連携しPR活動に取り組むこととしました。



県内新聞・TV・ラジオ関係者が参加



JAタウン福島や県産農畜産物・広報活動のPRコーナー

